

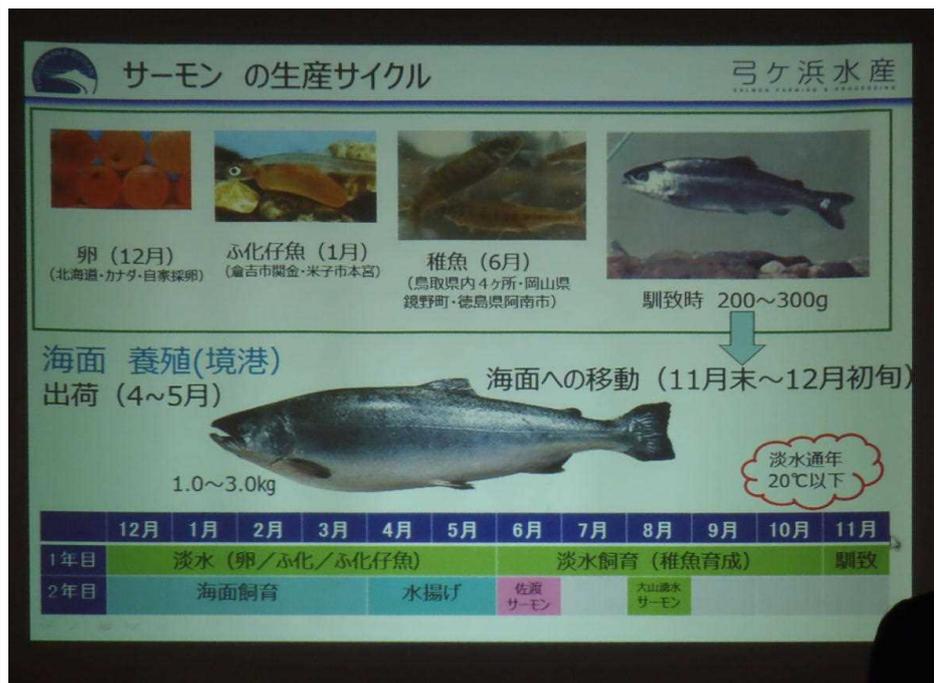
(3) 輸入サーモンと国内産サーモンの差別化に関する研究

1	実証講座名	銀ザケ養殖の現状と課題について
2	連携先および 講 師 名	弓ヶ浜水産㈱ 代表取締役社長 鶴岡比呂志
3	実 施 日 時	平成28年10月21日（金） 5、6限（2コマ）
4	実 施 場 所	新潟県立海洋高等学校視聴覚室
5	受 講 者	資源育成コース2年 栽培技術コース3年
6	受 講 人 数	2年18名 3年14名 計32名
7	授業科目名	総合実習
8	実施の概要	連携機関による講演
9	効果および ね ら い	諸外国と日本のサーモン養殖産業の現状を学び、国内での銀ザケ養殖事業の推進と戦略について理解する。
10	実 施 内 容	世界のサーモン養殖事業の現状、国内における銀ザケ養殖事業の取り組みについての講演。
11	講座の内容	<p>外国と日本の水産物需要と輸出入、各国のサーモンの養殖事情、国内における銀ザケ養殖事業の現状とメリット・課題。</p> 
	写真1 世界のサーモン養殖事情	

写真2  
銀ザケの養殖  
施設



写真3  
養殖銀ザケの  
生産



<p>写真4 質疑応答</p>	
<p>12 効果の検証 および課題</p>	<p>全世界のサケ・マス生産量は約350万トン（2015年）となっている。うち養殖ものはアトランティックサーモン、トラウトサーモン、銀ザケとなり、全体の70%を占める。銀ザケは、アトランティックサーモン、トラウトサーモンと共に、その生産量から安定供給に貢献しているといえる。講演では、銀ザケ養殖生産量が第1位の国（ノルウェー）の養殖事情、養殖業発展・成功の秘訣、もともとサケ・マス類が生息していない国（チリ）における養殖生産実績、サケ属を漁業とした古い歴史をもつ国（カナダ）の新しい産業としての養殖事情の紹介など、それぞれ興味深い内容を教示いただいた。日本国内における銀ザケの養殖は、養殖技術の進歩により生産量は年々増加傾向にあるものの、生産適地の開発が進まず、以後、生産量については、ほぼ横ばいであると予測されている。一方では、海外からの輸入量が急増していることもあり、国内産銀ザケの供給量は今後減少傾向にあるという。厳しい国際競争の中、純国産にこだわり、量産に頼らず活〆や鮮度保持による品質向上に徹すること、広報活動の強化など、工夫した取り組みが必須であると考え。今後、生産者の「顔」が見える銀ザケとしてマーケティング手法を勘案し方向性を見出していきたい。</p>